II-1. 教職に関する専門教育科目

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
- 2回 教師という職業（1）
- 3回 教師という職業（2）
- 4回 教師という職業（3）
- 5回 教師の役割（1）－学習指導－
- 6回 教師の役割（2）－生活指導－
- 7回 教師の役割（3）－地域との協力・連携－
- 8回 教師の役割（4）－教師役割の国際比較－
- 9回 専門職としての教師（1）－教職は聖職か？－
- 10回 専門職としての教師（2）－労働者としての教師－
- 11回 専門職としての教師（3）－専門職とは何か－
- 12回 専門職としての教師（4）－専門職としての成長－
- 13回 教師を取り巻く現実（1）－社会の変化と子どもの変化－
- 14回 教師を取り巻く現実（2）－授業崩壊と保護者との関係－
- 15回 全体のまとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

平常点（リアクション・ペーパー等、20点）および筆記試験の点数（80点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

8. オフィスアワー

教育原理 Principle of Education ◎ the 1 stperiod ◎ Monday

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1・2年次 学期：前期 単位区分：選択必修

単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2回 教える者、教えられる者
- 3回 発達と社会化
- 4回 人間の発達段階
- 5回 中間テスト I
- 6回 学校制度の国際比較
- 7回 公教育の歴史と制度
- 8回 教育改革の動向
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 中間テスト II
- 11回 不登校という選択
- 12回 「いじめ」とは何か？
- 13回 教育のリストラクチャリング
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計	60%
期末テスト	40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：1・2年次 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 今村 義臣

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。そこでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得すること。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 ころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19
- 参考書 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：1・2年次 学期：後期 単位区分：選択必修
 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するのではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 家族をめぐる諸問題
- 2回 文化的再生産と教育
- 3回 エスニシティと教育
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 中間テストI
- 6回 メディアと教育
- 7回 現代の子ども文化
- 8回 現代の若者文化
- 9回 少年犯罪言説と少年法
- 10回 少年司法のポリティクス
- 11回 中間テストII
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%
 期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6
 柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：3年次 学期：通年 単位数：4単位
 担当教員名 永田 萬亨

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置付け

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育 教材研究 技術教育 職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2回 学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15回 まとめ
- 16回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

- 18回 技術革新と工業教育の改編
(産業界の要請、工業教育の多様化)
- 19回 工業に関する学科の目標
(工業高校の目標と工業に関する各学科の目標)
- 20回 教科「工業」の目標と学科の目標
(教科「工業」の目標の変遷)
- 21回 学科の教育課程編成(生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方)
- 22回 教材(教材の概念、教授学習過程における教材の位置)
- 23回 工業技術教育の指導性(物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について)
- 24回 教育評価
(学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点)
- 25回 授業評価(教授学習過程における評価、評価方法)
- 26回 学習指導案の構成(1)
(学習指導案の構成、留意点について)
- 27回 学習指導案の構成(2)(同上)
- 28回 学習指導案例(1)
(「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する)
- 29回 学習指導案例(2)(同上)
- 30回 まとめ

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況(20%)、講義の合間に行う小レポート(30%)、期末試験(50%)によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者(工業)は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999年
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005年 375.6/S-2

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をおフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法(数学) I

対象学科(コース):全学科(教職科目)
学年:3年次 学期:前期 単位数:2単位
担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、我が国の数学教育の現状を踏まえて、これからの数学教育が目指すものについて考察する。

2. キーワード

学習指導要領 数学教育史 数学教育の目的 基礎・基本 思考力・表現力

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①我が国の数学教育の現状
- ②これからの数学教育の在り方(中教審答申、学習指導要領)
- ③数学教育の歴史
- ④数学教育の目的
- ⑤数学教育における基礎・基本
- ⑥数学的な思考力・表現力

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 我が国の数学教育の現状①—TIMSSとPISA—
- 3回 我が国の数学教育の現状②—全国学力・学習状況調査—
- 4回 これからの数学教育の在り方①—中央教育審議会答申—
- 5回 これからの数学教育の在り方②—中学校学習指導要領—
- 6回 これからの数学教育の在り方③—高等学校学習指導要領—
- 7回 数学教育の歴史①
- 8回 数学教育の歴史②
- 9回 数学教育の目的①
- 10回 数学教育の目的②
- 11回 数学教育における基礎的・基本的な知識・技能①
- 12回 数学教育における基礎的・基本的な知識・技能②
- 13回 数学的な思考力・表現力①
- 14回 数学的な思考力・表現力②
- 15回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席30% 期末レポート70%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
- ③授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

8. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：3年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、教科教育法（数学）Ⅰで取り上げた「これからの数学教育が目指すもの」を達成するための方法（手段）と評価について考察する。

2. キーワード

数学的活動 活用 授業スタイル 評価

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ① 数学的活動
- ② 数学科における活用
- ③ 数学科の授業スタイル
- ④ 数学科の評価

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 数学的活動①—中学校—
- 3回 数学的活動②—中学校—
- 4回 数学的活動③—高等学校—
- 5回 数学的活動④—高等学校—
- 6回 数学科における活用①—中学校—
- 7回 数学科における活用②—中学校—
- 8回 数学科における活用③—高等学校—
- 9回 数学科における活用④—高等学校—
- 10回 数学科の授業スタイル①
- 11回 数学科の授業スタイル②
- 12回 数学科の授業スタイル③
- 13回 数学科における評価①
- 14回 数学科における評価②
- 15回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席 30% 期末レポート 70%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ① 教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ② 授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
- ③ 授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

8. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程（カリキュラム） 教科

3. 到達目標

- ① 各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ② 教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③ 現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 はじめに—学校教育をとりまく状況—
以下 教育課程総論
- 3・4回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6回 教育課程の変遷
- 7・8回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

- 田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 改訂版』有斐閣 2009年 375/T-5
参考書1) 山崎英則・片上宗二 編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1
2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説—総則編—』375.1/M-15/08-2

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位
 担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動（ホームルーム活動） 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ① 日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ② 中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③ 生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動－中学校－
- 7・8回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 最終試験

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

相原次男、新富康史編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房 375/M-16/8

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科（教職科目）
 学年：3年次 学期：前期 単位数：2単位
 担当教員名 高田 清

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応え実践的指導力を獲得するためには、学校教育現場での教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

学校教育現場では、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・文化活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な原則と特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成して教育課程論の原理を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の方法論を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

学習指導要領 授業実践記録 学力 評価

3. 到達目標

- ①今日の教育課題を理解し、学校教育の構造と役割を理解する。
- ②教育実践における「指導」の本質と方法技術の基本を理解する。
- ③学習指導と特別活動の独自な課題と指導方法を理解する。

4. 授業計画

- (1) 教育と教育実践の方法技術
 - 1回 オリエンテーション
 - 2回 教育実践とは何か? 実践の方法と技術
 - 3回 教育における言葉について
 - 4回 教育実践の二つの原則
 - 5回 教師の実践的指導力について
- (2) 教育課程の編成の原理
 - 6回 学校教育の構造と教育作用の構造
 - 7回 教育課程とは何か
 - 8回 学習の指導と生活の指導
- (3) 授業の指導
 - 9回 授業とは何か
 - 10回 授業の構想
 - 11回 教材づくりと教材解釈
 - 12回 教育における「話し合い」の指導
- (4) 特別活動の指導原理
 - 13回 今日の子どもと特別活動の意義
 - 14回 特別活動の指導原則
- (5) 情報機器の利用
 - 15回 教育実践と情報機器
 - 16回 試験

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（60％）と出席状況（40％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①基本的には講義だが、話し合いも行う。積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。適宜プリントを配布する。
- 参考書 高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8. オフィスアワー

kiyoshiroko@tng.bbiq.jp

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 山瀬 範子

1. 概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

2. キーワード

人格の発達 心理査定 いじめ 非行 不登校 進路指導 教育相談 カウンセリング

3. 到達目標

- ① 人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ② カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③ 教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習（カウンセリング技法など）も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

- 1回：生徒指導とは何か
- 2回：生徒指導の領域
- 3回：生徒指導の方法
- 4回：生徒理解 ① 人格の発達
- 5回：生徒理解 ② 発達の問題
- 6回：生徒理解 ③ 心理査定
- 7回：問題行動 ① いじめ
- 8回：問題行動 ② 非行
- 9回：問題行動 ③ 不登校
- 10回：問題行動 ④ その他
- 11回：進路指導とは何か
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：カウンセリングの考え方
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ
- 16回：試験

5. 評価の方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書・参考書

●教科書を使用する。また、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

8. オフィスアワー

なし（非常勤講師のため）

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性ももっとも高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ① 思春期・青年期の発達を理解する。
- ② 思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③ 教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1回：はじめに（教育相談の概念整理）
- 2回：発達とは
- 3回：発達段階
- 4回：思春期・青年期の発達①
- 5回：思春期・青年期の発達②
- 6回：学童期・思春期の心理障害①
- 7回：学童期・思春期の心理障害②
- 8回：青年期の心理障害①
- 9回：青年期の心理障害②
- 10回：教育相談・カウンセリングの理論と方法①
- 11回：教育相談・カウンセリングの理論と方法②
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法③
- 13回：カウンセリング技術の実習①
- 14回：カウンセリング技術の実習②
- 15回：まとめ
- 16回：試験

5. 評価の方法・基準

出席および期末試験で評価する（出席30% 期末試験70%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

8. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

教職実践演習（高）

Practical Seminar for Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成・菊池 悌一郎・岡崎 悦明・
谷野 勝敏

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

- ①ディスカッションやロールプレーを通して、教師としての使命や責任を体得する。
- ②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。
- ④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

2. キーワード

教師としての資質向上・力量形成

3. 到達目標

- ①これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ②教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
- ③教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション
(これまでの学校生活、学修をふり返って)
- 2回 教職の意義と教員の役割①(グループディスカッション)
- 3回 教職の意義と教員の役割②(ロールプレー)
- 4回 地域フィールドワーク実習①
- 5回 地域フィールドワーク実習②
- 6回 生徒指導・進路指導・学級経営①
(グループディスカッション)
- 7回 生徒指導・進路指導・学級経営②(ロールプレー)
- 8回 生徒指導・進路指導・学級経営③
(学校現場の見学・調査)
- 9回 生徒指導・進路指導・学級経営④
(見学調査を踏まえた討論)
- 10回 数学模擬授業①
- 11回 数学模擬授業②
- 12回 工業教科模擬授業①
- 13回 工業教科模擬授業②
- 14回 模擬授業に基づく討論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

平素の授業態度(30%) 発表内容(30%) 最終レポート(40%)

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は、必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参画すること。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし

●参考文献

高等学校学習指導要領(総則・数学・工業)
各種審議会答申
教育六法
その他、教育に関する各種新聞記事等

8. オフィスアワー

全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 Vocational Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目）

学年：4年次 学期：後期 単位数：4単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

●授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

2. キーワード

職業指導 キャリア教育 専修学校 公共職業訓練 企業内教育

3. 到達目標

- ①現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
- ②職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

4. 授業計画

- 第1回：職業指導とは？
- 第2回：職業指導の社会的基底
- 第3回：経済政策と青少年問題
- 第4回：労働と職場の現実①
- 第5回：労働と職場の現実②
- 第6回：産業社会と職業分布①
- 第7回：産業社会と職業分布②
- 第8回：内部形成と外部形成
- 第9回：青年の自立と高校職業教育①
- 第10回：青年の自立と高校職業教育②
- 第11回：各種・専修学校における職業教育①
- 第12回：各種・専修学校における職業教育②
- 第13回：公共職業訓練と能力開発①
- 第14回：公共職業訓練と能力開発②
- 第15回：まとめ
- 第16回：職業の様々な側面
- 第17回：職業観の変容
- 第18回：生きがいと職業
- 第19回：社会的分業と職業
- 第20回：職業選択の意味
- 第21回：職業選択と情報
- 第22回：情報化の進展と職場の変化
- 第23回：女性の職場進出と労働
- 第24回：男女雇用機会均等法の成立と現在
- 第25回：各種・専修学校と生涯教育
- 第26回：公的職業訓練の動向
- 第27回：企業内教育とOJT
- 第28回：企業外部の教育機関とOffJT
- 第29回：学校教育と職業教育
- 第30回：まとめ
- 第31回：試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。
- ④働く現場を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として学外授業、例えば工場見学や職業能力開発施設の視察を計画している。

7. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

蒲田慧『日本人の仕事』1986年、平凡社 ISBN：978-4582705027
木村保茂、永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社、2005年 ISBN：4762013692

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談については、授業終了後をおフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。nagata@fukuoka-edu.ac.jp